

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 岐阜県立中津高等学校 学校運営協議会 (第2回)
- 2 開催日時 令和3年11月29日(月) 14:30~16:30
- 3 開催場所 岐阜県立中津高等学校 大会議室
- 4 参加者

会 長	田島 雅子	中津川市教育委員
副会長	糸魚川 謙一	元全日制PTA会長
委 員	楯 明夫	中津川市立第二中学校校長
	西尾 晃司	定時制同窓会長
	深津 広樹	中津川市役所 定住推進部市民協働課 次長兼課長
	古井 淳子	全日制PTA副会長
	松下 嘉広	一般財団法人ヒガシミノ団地代表理事
	水野 賢一	同窓会長・中津川市議会議員
	宮良 淳子	中京学院大学教授
	吉村あづさ	図書館ボランティア養成コーディネーター
学 校 側	森井 静子	校長
	今井 雅人	副校長
	谷口 典子	事務部長
	渡邊 卓哉	教頭

5 会議の概要(協議事項)

(1) 学校評価アンケートについて(以下の意見は全て全日制の結果に関する意見)

意見1: アンケートのとり方や項目について、紙ではない方法や自由記述などを入れたらどうか。

⇒Webアンケートの導入も考えている。項目については、県統一の項目であるが、学校独自の項目もある。

意見2: 「体罰」の項目であり当てはまらないと答えた生徒の特定はできているか。

⇒体罰調査を実施したが、該当する生徒はいなかった。

意見3: 「総合的な探究の時間」の項目で2年生が低いのはなぜか。

⇒7月下旬の調査で、総合的な探究の時間で本格的な内容を実施していない時期だったので、このような結果になったと思われる。

(2) スクール・ポリシーについて(事前に聴取した委員からの意見をもとに協議)

<全日制のスクール・ポリシー>

意見1：本校は地域ボランティア活動、地域貢献活動に力を入れていると思う。いずれかの文面に、このあたりの考え方を組み入れることはできないか。

海外留学は同窓会の事業なので記載はできないと思うが、中津高校の特色の一つとして「グローバル」の標記と併せ、表現することはできないか。

地域の中で最も歴史があり、地域に根付いた高校であることを表現することはできないか。

意見2：以下のように改めてはどうか。

- ・幅広く質の高い教養を身に付け、ものごとを深く探究し、将来グローバルに活躍できる生徒
- ・自己を理解する力を身に付け、自らすべきことを考え決断し、自分を律しながら行動できる生徒
- ・創造力と協働力を身に付け、敬愛心をもって、自分の考えを伝えることのできる生徒

意見3：以下のことを組み入れてはどうか。

課題発見・設定力：決められた課題に対して、横並びや効率的回答を出すのではなく、課題自体を発見、設定でき、その元で提案・改革を生み出すことのできる力を養う。

主体性発揮力：社会人(企業)は、相手のニーズをくみ取り、自ら行動を起こす、変革を起こす人物が求められ、主体性を身に付けることを養う。

対話力：パソコン・携帯電話などのツール発達により、対話によるコミュニケーション能力が弱まっており、よりよい人間関係の構築、つながりを保つため対話力を身に付ける。

⇒上記のような内容は、今回提案したスクール・ポリシーに含まれていると考えている。

また、「伝統ある地域の中心校」という表現は、各ポリシーには適さないと思われる。

意見4：中学生でもわかる表現にしたらどうか。難しすぎないか。

⇒ホームページにも掲載され、基本的には保護者や中学生が見るものである。表現を含めた文例が県から提示されており、それに基づいて作成した。

<定時制のスクール・ポリシー>

意見1：現代において、定時制の存在そのものが大きな特色である。働きながらの勤勉意欲に応える旨の標記ができないか。

意見2：以下のことを組み入れてはどうか。

- ・パソコン・携帯電話などのツール発達により、対話によるコミュニケーション能力が弱まっており、よりよい人間関係の構築、つながりを保つため対話力を身に付ける。
- ・地域社会と職業感の醸成：自ら将来像を描き、地域社会に出て活躍できる職業感のイメージができる力を養う。

意見3：全日制で標記された「協働力」の協働と、定時制の「協同」とは、どういう意味合いで使い分けているのかが、分かりにくい。意図があればいいが、なければ同じ表記の方がよい。

⇒意見1、2については、カリキュラム・ポリシーやアドミッション・ポリシーの記載内容に含まれていると考える。意見3については、「協働」は公共圏を、「協同」は親密圏における協力を表している。定時制の生徒については、まず親密圏を得ることが一番だと考え、「協同」を選択した。

意見4：カリキュラム・ポリシーの2つ目、「自己効力感や信頼関係を育む学校文化」の「自己効力感や信頼関係」は「学校文化」に掛かるものか。「学校文化」という表現は、わかりにくい。「学校文化」は「校風」ではないか。

⇒「学校文化」とは、雰囲気、伝統、制度などの総称であり、本校定時制では、生徒と教員の信頼関係が重要な構成要素である。近いものとして「校風」だが、敢えてこの表現にした。

意見5：「協同」と「協働」について分かりやすい説明で、納得した。

意見6：「対自己」、「対他者」、「対社会」の3つに分けた項目で、わかりやすい。

(3) ふるさと教育について（探究活動について学校より説明）

意見1：地域人材（ゲストティーチャー）として参加した。私の担当したグループでは、こちらから課題を与えて取り組んでもらった。担当生徒は3つのグループに分かれてそれぞれの課題について、研究をして発表した。それを受けて、コメントや交流をしたりして、とてもよい時間であった。若い人の力や発想力を借りながら、参考になることがあり、大変良い機会となった。

意見2：中津川東地域まちづくり協議会の方がゲストティーチャーを務められ、その際学校で行ったことと同様に生徒に取り組んでもらった。生徒からの提案は非常に参考になるという話であった。授業だけでなく、授業以外の場でも地域と学校との関わりを考えている。今年度から街づくり協議会を立ち上げており、SDGsにある食品ロス、ごみの減量など、学校の取組として地域と一緒にやっていければと考えている。

(4) 県立高校体育施設開放について

意見1：定時制が夜間に授業を実施していること、土日は各部活動が使用することから開放することは難しいのではないかと。

(5) プール老朽化について（今後の方向性を学校より説明）

(6) その他

- ・校則改正について 改正の手順について説明

6 会議のまとめ

第二回学校運営協議会では、それぞれの協議事項について、全委員より承認が得られた。委員からはふるさと教育週間に授業参観をした際、「生徒も教師もとても雰囲気がよく充実していた」「ロッカーにカギがついていなくても安心できる学校が、素晴らしい」などの意見が得られた。